



# すぐ使える90分セミナー ＜テーマ：シラバスの書き方＞



徳島大学 高等教育研究センター

吉田 博

# セッションの到達目標



1. 教育の内部質保証について説明することができる。
2. シラバスの役割を説明することができる。
3. シラバス作成ガイドラインに則ったシラバスを作成することができる。



# セッションの流れ

1. 教育の内部質保証
2. シラバスの役割
3. シラバス作成ガイドライン
4. シラバスの書き方
5. シラバスチェック→修正



# 教育の内部質保証とは

## 内部質保証とは、

大学が自律的な組織として、その使命や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究、組織及び運営、ならびに施設及び設備の状況について継続的に点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善・向上に取り組むこと。

## 教育の内部質保証とは、

大学の教育研究活動の質や学生の学修成果の水準を自ら継続的に保証すること。

# 「内部質保証」が重視される背景

## ◆社会の変化への対応

- 少子高齢化、大規模自然災害、技術革新への対応
- グローバル化、アジア諸国の台頭

## ◆社会や企業による大学教育への期待

- 大学教育の質保証（学生の成果に注目する）
- 社会への説明責任

## ◆認証評価の問題（形骸化）

- 評価項目が法令適合性等の外形的なものが多く、教育研究活動の質的改善を促すものになっていない。

# 「内部質保証」に関する主な取組・流行

- ◆3つのポリシー（AP、CP、DP）の策定
- ◆アセスメントポリシーの策定
- ◆FDの義務化→SDの義務化及び定義の拡大
- ◆FDの高度化：授業改善からプログラム改善へ  
一般教員に加えて執行部にも  
大学院生(博士)へのFDも
- ◆教学IRへの期待の高まり
- ◆『教育の内部質保証に関するガイドライン』の発表

# 「内部質保証」に関する徳島大学の取組

- ◆3つのポリシー（AP、CP、DP）の策定・見直し
- ◆カリキュラムマップ、ナンバリング、CCLの策定、  
毎年度の確認をルーチン化
- ◆『教育の内部質保証に関する方針』を策定
- ◆『成績評価基準』を策定
- ◆『シラバス作成ガイドライン』の策定・改訂
- ◆各学部プログラム評価委員会を設置

# 『教育の内部質保証方針』

- ◆ **学士課程教育、大学院教育**それぞれの教育の質保証について、**方針とガイドライン**を定めた。大学院については研究指導を含む。
- ◆ **3つのレベル**に分けて記載されている
  1. 統括及び管理運営の評価 <全学レベル>
  2. プログラムの評価 <学位レベル>
  3. 学生の学修成果の評価 <科目レベル>
- ◆ 関連して、『成績評価基準』の策定、  
『シラバス作成ガイドライン』の改訂が行われた。



# 学生の学修成果の評価

## 授業・成績評価ガイドライン（一部抜粋）

- (1)対象：全ての授業科目について、受講学生、科目担当教員による学生の学修成果の評価が対象
- (2)方法：評価の機会や方法の複数化  
評価の内容、実施時期、方法(直接、間接)、  
評価基準をシラバスに公表  
学生は、主体的に学修に取り組む責任を持つ
- (3)手順：日程の公表、内容の開示、評価方法・評価基準の  
開示、評価の実施、記録の開示及び保存(5年間)
- (4)疑義の申し立て：申し立て先、調整の実施、記録の保存
- (5)改訂：少なくとも2年ごとに見直す

# シラバスとは何か（文科省答申）

学生に事前に提示するシラバスは、単なる講義概要（コースカタログ）にとどまることなく、学生が授業のため主体的に事前の準備や事後の展開などを行うことを可能にし、他の授業科目との関連性の説明などの記述を含み、授業の工程表として機能するよう作成されること。

中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」

# シラバスの役割

## 1. 授業選択のガイド

- 自身の学力・興味関心などに見合った科目か判断する

## 2. 教員と学生との契約書

- 単位の付与・教育の提供、授業への取り組み方などを約束する

## 3. 学習効果を高める

- 学習への動機づけ、やるべき学習方法、量、レベルの把握

## 4. 人間関係づくりのツール

- 教員（学問）への関心の第一歩となる

## 5. 授業の雰囲気伝える

- シラバスの文面から授業の雰囲気や教員の人柄をイメージする

## 6. 授業全体をデザインする文書

- 1回分の授業と全体とを俯瞰的に確認できる（目次的機能）

## 7. カリキュラム全体に一貫性を持たせる資料

- 学科・コース・専攻のカリキュラム単位から授業、学習を確認できる

# 徳島大学シラバス作成ガイドライン

徳島大学で開講されているすべての授業について、シラバスに記載する項目及びその記載方法について大枠を示したもの。

- シラバスは各学部・学科のDP、CPと密接な関係があり、整合性を持つことが重要です。
- シラバスは、決して授業担当教員の個人の考え方のみによって書かれるものではありません。

2014年11月19日 大学教育委員会 決定

2019年2月20日 大学教育委員会 一部改正

※DP:ディプロマポリシー（学位授与の方針）

CP:カリキュラムポリシー（教育課程・実施の方針）

# (1) 授業の目的

- ◆ **学生を主語**として記載する。
- ◆ DPや学科の**カリキュラムとの関連**を明記する。
- ◆ DPを達成するために、**授業がなぜ必要**であるかの存在意義が記載する。

## 例

食品とは、人が日常的に食物として摂取するものの総称であり、日々摂取することで身体の栄養を保持し、生体の恒常性を維持している。食品には多種多様な成分が含まれており、その成分には栄養素・非栄養素としての有機化学的な特徴がある。食品は直接そのまま食用にする場合もあるが、調理・加工してから食用とする場合が多く、調理加工や保存過程での成分変化等もみられる。そこで、**食品の成分を化学構造から捉え、食品とその加工の特性を理解し、食品の生産や加工への応用を成す能力を修得する。食品加工の技術は、新たな産業の創出における重要や技術の一つである。この授業で学習する知識や技能は、どのコースにおいても基礎となる内容である。**

## (2) 授業の概要

- ◆学部、学科のカリキュラム上で位置づける。
- ◆学生の知的好奇心を喚起するように記載する。
- ◆アクティブ・ラーニングを取り入れる。

### 例

医学研究は動物実験を通してヒトでは直接なし得ない研究を可能とし、めざましい発展を遂げてきた。医学最先端領域をよりよく理解するためには、胚発生工学や遺伝子改変技術に裏打ちされた現行実験動物学の潮流を学ぶ必要性がある。

授業は実験動物の特性、マウスゲノム遺伝学、幹細胞生物学を中心に理解を深める。また、医学領域での疾患モデル動物、その遺伝解析について学び、同時に動物実験の倫理について習得する。

主に講義形式で解説を行い、授業の途中で小レポートを実施する。小レポートは、授業に関連する内容について考え、応用することができるようにするための課題を与える。まず個人で考え、その後グループで意見交換を行いまとめる。

## (6) 到達目標

- ◆ 授業の終了時点において学生が習得しておく必要がある学修成果のこと。
  - カリキュラムに基づいて決められる
- ◆ 該当授業の単位を付与する最低条件である。
  - 学生を設定した目標以上に育成する
- ◆ あらかじめ明確に示しておく必要がある。

## (6) 到達目標

- ◆ **学生を主語**として記載する。
- ◆ **1つ1つ独立**させる。
  - ▶ 分析装置の構成を説明することができ、その装置で測定したデータを解析することができる。(←2つに分ける)
- ◆ 学生が自分の身につく能力が**イメージできるように**具体的に記載する。
- ◆ **観察可能な動詞**を使う。
  - ▶ 参考：シラバス作成ガイドラインp.6
- ◆ 評価を意識して**「基準」や「条件」も記載**する。
  - ▶ 薬物の安定性に影響を与える因子を3つ以上述べる  
ことができる。



# お勧めの書籍



## シリーズ大学の教授法 1 『授業設計』

中島 英博 編著

玉川大学出版部

- ◆意欲や態度を育てる授業、複数教員での授業などの設計方法のほか、教材やシラバス例などの資料を掲載。

## (7) 授業の計画

- ◆ 授業の目的・目標と整合性をとる。
- ◆ 2単位の場合は15回分の授業内容を記載する。
- ◆ 授業時間外にどのような学習を行うべきかを具体的に記載する。

- 例**
- 毎回の授業終了時に次回の授業で使用する資料を配布する。それに目を通してから授業に参加すること。また、資料の再配布は行わないため必ず持参すること。（予習に関する記載）
  - 教科書の授業に関連するページを再度復習し、練習問題をすべて解くこと。なお、解けなかった問題はオフィスアワーに質問に来るか、友人に聞くなどして理解しておくこと。（復習に関する記載）

## (11) 成績評価方法・基準

- ◆「到達目標」を達成したかどうかを判定すること
- ◆正確に判定するために、原則として、評価の機会  
や方法を複数化し、総合的な成績評価を行う
- ◆「到達目標」のすべてを網羅するようにする
- ◆評価の内容、方法、実施時期、評価基準を具  
体的に明記する

# (11) 成績評価方法・基準

## ◆シラバスに記載する必要があるもの

### 1. 評価の方法と期限、実施時期

- 定期試験、レポート、小テスト、発表、ポートフォリオなど
- 毎授業で実施、15回目に実施、全部で3回実施など

### 2. 評価の配分割合を記載する。

- **期末試験60%**、**小レポート30%**（授業内で3回実施し、各10点満点で採点）、**授業内での発表10%**

### 3. 評価の基準を記載する。

- **期末試験は60点以上取得**すること（100点満点）
- レポートを**期限内に提出していない場合は評価しない**。
- 授業中にグループ課題を**発表した場合に5点追加**する。

# お勧めの書籍



## シリーズ大学の教授法 4 『学習評価』

中島 英博 編著

玉川大学出版部

- ◆ 学習評価とは学生の学習成果を最大限に高める広範な教育活動のこと。ルーブリック、ポートフォリオ評価など、多様な評価を網羅。

## (19) 実務経験及びその内容

- ◆ 実務経験を活かして授業を行う際に、どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのかを記載する。
  - 学生は、授業と社会における実務との関連を把握することができ、学習への動機づけになる。
  - 「授業料・入学金の減免と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充」において、支援措置対象大学として指定を受けるための必要な条件の1つ。

### 例

〇〇関連企業において、〇〇の活用に関する実務経験を有する教員が、〇〇を活用するために必要な基礎知識を紹介した上で、具体的な〇〇活用に関する取り組みについて実例を交えながら授業を行う。

## その他（大事なこと）

### ◆授業のルール

- 遅刻や欠席の際にどうするか？
- 課題の提出について
- 私語、携帯電話の取り扱い方
- 内職などの対応

### ◆オフィスアワー、連絡先、参考文献、資料

- 授業時間以外での学習に繋がる
- 学生が授業で分からない時に質問できる

### ◆受講生へのメッセージ

- 教員の授業に対する姿勢を伝える

# シラバスチェック

□修正が必要なサンプルシラバスについて、  
チェックリストをもとに確認しましょう。

✓「教員視点」ではなく、  
「学生視点」でチェックして下さい。